

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			服装造形 論 I A		1・前期	60	2	○			○			○			
○			服装造形 デザイン I A	ファッション業界をグローバルな視点からみつめる4年間のコース。アパレル各分野の発展を担うリーダーとなる人材の育成を目的としている。1年次では、アパレル全般を理解するため総合的に学び、レディースを中心とした服飾全般の基礎知識と技術を習得する為に、縫製技術の基礎から綿素材のスカート、ブラウス、パンツ、裏付きのウール素材のスカート、ジャケット、ワンピースを製作する。 1、基礎Ⅰ・基礎Ⅱ 一般知識・縫合の基礎(部分縫い)・作図の基礎 2、体型研究 トワル制作・試着補正・レポート 3、スカートⅠ デザイン・パターン・実物制作・レポート 4、ブラウス デザイン・パターン・実物制作・レポート 5、立体裁断 PM対策・ボディ準備(目標線の入れ方) 6、バザー作品 文化祭バザー作品・グループ製作 7、スカートⅡ デザイン・パターン・実物制作・レポート 8、ジャケット デザイン・パターン・実物制作・レポート 9、パンツ デザイン・パターン・実物制作・レポート 10、ワンピースドレス デザイン・パターン・実物制作・レポート	1・前期	60	2			○	○				○		
○			服装造形 パターンメイキング I A		1・前期	30	1				○	○				○	
○			服装造形 ソーイング I A		1・前期	120	4				○	○				○	
○			服装造形 論 I B		1・後期	60	2	○				○				○	
○			服装造形 デザイン I B		1・後期	60	2					○	○				○
○			服装造形 パターンメイキング I B		1・後期	30	1					○	○				○
○			服装造形 ソーイング I B		1・後期	150	5					○	○				○

○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について、関心を持たせる事を目的とする。前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、工業用ミシン、アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得する。後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。	1・通年	30	1	○	△	○				○
---	--	--	-----------	--	------	----	---	---	---	---	--	--	--	---

(2/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自由研究 I A	前期・後期の学習内容をふまえて応用、発展させる。自由にテーマを決めて作品を制作し、プレゼンテーションをする。	1・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究 I B		1・後期	30	1			○	○		○		
○			ファッションデザイン画 I	人体のプロポーションを把握し、衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する。衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる。ファッションコンテスト、コンクールへの参加	1・通年	60	2			○	○		○		
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながるような描写とその楽しさを再認識する事とあわせ、基本的描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服飾デザイン論 I	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		

○	西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○	○	○						
---	-------	---	------	----	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

(3/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル素材（繊維、糸、布地、染色整理加工）に関する基礎知識について、講義や実験、演習を通し理解させる。更にアパレル業界との繋がりや現状と関連付けながら素材解説し、制作物やビジネスにおける的確な素材選定ができる力を習得することを目標とする。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス概論	ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○		○		
○			コンピュータグラフィックⅠ	ビジネスソフト・グラフィックソフトの中でも応用性の高いアプリケーションソフトを用い、目的・用途に応じたソフトの利用が出来ること、表現手法に広がりを持たせることを目標とする。また、他学科の課題制作が自由に行えるように内容を構成し、2年次に向けての基礎を固め、各自の能力の向上を目指す。	1・通年	60	2				○	○			○

○		服飾手芸 I	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1			○	○			○
○		ファッション英会話 I	英会話の基本的な文法を学習したレベルを想定し、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙なども導入する。	1・後期	30	1			○	○			○

(4/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科1年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			フランス語 I	初めて学ぶフランス語の音と仕組みに母国語とは異なる面白さを感じられるよう、個々の興味を促し、発音練習を楽しめるようにする。まずは日常生活のシーンで使われる基礎的な会話表現を「聴く、話す、読む、書く」を通じて親しみ、人間関係の出発点である挨拶と簡単な自己紹介が出来るレベルから目指す。映画やファッションなどの話題も紹介しながら、フランス文化に触れる機会も提供する。	1・後期	30	1			○	○		○		
	○		コラボレーションa	企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。人と人との様々なつながりと調和が必要となるため柔軟な人間力、コミュニケーション能力を身につける。	1・後期	30	1			○	○			○	

○		特別講義・キャリア開発Ⅰ	レギュラーカリキュラムに含まれない関連分野の知識習得及び、人材育成のための講義などで構成する。テキスタイル情報、コレクション情報、キャリア教育、ファッションビジネス、舞台衣装、着物の知識、パターンメーカーの仕事、ビジネスマナー、デザイナーについてなどの各スペシャリストを講師に招いての特別講義を行う。	1・ 通年	30	1	○		○		○	
○		校外研修Ⅰ	都会生活から離れた「山」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力、協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深める。オリエンテーション、クラスミーティング、コミュニケーション活動、グループコミュニケーション、野外炊飯、スコアオリエンテーション、体育活動、キャンプファイヤーを通して人間力の向上を目指す。	1・ 前期	30	1			○	○		○
学年合計				23科目	1,170単位時間(39単位)							
(5/18)												

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造形 論 ⅠA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に習得した基礎知識、技術をもとにアパレル造形として発展させ、トレンドを意識した商品としての価値観を加味しデザイン発想する。また、デザイン別・素材別のパターンと縫製技術を習得する。 ・ 個に対する服作りから不特定多数の量産への意識付けと理論の展開を図り、縫製仕様・縫製方法を理解する。 ・ ドレーピングの習得を通しバランス感覚を養い、立体感とデザイン発想を各自の作品に反映させる。 	2・ 前期	60	2	○			○	○			
○			アパレル造形演習 デザインⅠA		2・ 前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅠA		2・ 前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習 実技ⅠA		2・ 前期	60	2			○	○		○		

○		アパレル造形論 I B	1、一重ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 2、バザー作品 文化祭バザー作品 グループ製作 3、総裏ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 4、皮革作品 デザイン・パターン・実物製作・レポート 5、修了制作 デザイン・パターン・実物製作・レポート 6、ドレーピング 胸ぐせダーツの応用・スカート・ブラウス・ジャケット (使用ボディ…文化ボディ)	2・後期	60	2	○			○								
○		アパレル造形演習デザイン I B		2・後期	60	2			○		○							
○		アパレル造形演習ドレーピング I B		2・後期	60	2			○		○							
○		アパレル造形演習実技 I B		2・後期	60	2				○	○							
○		生産管理概論	生産活動の重要な要素であるQ(品質)C(原価)D(納期)について認識を向上させることを目標とする。 生産実務において情報伝達に用いられる「縫製仕様書」「加工・裁断・芯貼り指図書」を作成できる力を身につける。 また生産現場である工場と円滑に業務を遂行することを目指し、製造現場での取り組みを知ること、企画で設定したQCDを実現するための基礎的な能力を養う。	2・前期	30	1	○			○								

(6/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			自由研究 II A	・子供服の一般知識と原型を理解し、グループで型出し・プレゼンテーションを行う。	2・前期	30	1			○	○			○		
○			自由研究 II B	・一重ジャケットとのコーディネートを考えボトムスを製作する。	2・後期	30	1			○	○			○		

○		ファッションマーケティング	・マーケティングの基礎を学び、客観的な視点で市場を見る目を養う。 ・特定ターゲットに対するブランド設計のグループワークを通して、自らの役割と他者との関わり方を学ぶ。	2・後期	30	1	○			○									
○		CADパターンメイキングⅠ	アパレル産業の設計・生産・製造のプロセスにおいて利用されている「アパレルCAD」について、その有用性を認識し活用するための技術を身につける。CADでの囲み作図や、手書きの作図をスキャナで入力したものをデータ化し縫い代をつけるなど、工業用パターンを完成させる方法の基本的な操作を習得する。基礎的な作業ができるレベルを目指す。	2・通年	60	2				○	○								
○		ニットアパレル造形Ⅰ	ニットの基礎知識を習得し、概論及び商品知識を理解する。基礎技術を習得し、その応用で布帛の知識を生かしたニット作品（コーディネート作品、小物）を製作する。	2・通年	60	2				○	○								
○		コンピュータグラフィックⅡ	グラフィック系ソフトの基本操作技術をレベルアップさせ、アパレルデザインや各種プロモーションツールの制作等、実践に活かせるスキルを身につける。	2・通年	60	2				○	○								
○		帽子	帽子の一般常識と帽子に対する知識を深め、服飾に於ける帽子の位置づけを理解させる。トータルイメージを表現する力を養い、作品制作を通して帽子のイメージや服とのバランス感覚などを把握	2・後期	30	1				○	○								
○		ファッション英会話Ⅱ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に文法の復習と、口頭での運用力の強化を主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象とするため、ファッション関連の語彙を増すこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。Show & Tellによるプレゼンテーションを行うことにより、英語のエッセー構造を学び、英語発話力を高める。レベルは初級の中位から上位まで。	2・通年	60	2				○	○								

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科2年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		フランス語Ⅱ	フランス語を半期学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単で日常的にかかわりあうことができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	2・通年	60	2			○	○		○		
	○		中国語Ⅰ	発音の土台「ピンイン」から始め、難関の「四声」「変調」「巻き舌音」をマスターします。入門段階では、単語を蓄積しながら文型入り、実践練習で会話表現を覚えます。初級段階では、時制のニュアンス、意思の伝え方を学びます。中検準4級基準。準中級段階では、疑問表現を学ぶほか、物事の比較・類似・比喩表現についてトレーニングします。中検4級基準。	2・通年	60	2			○	○		○		
		○	コラボレーションb	企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。人と人との様々なつながりと調和が必要となるため柔軟な人間力、コミュニケーション能力を身につける。	2・後期	30	1			○	○		○		
	○		特別講義・キャリア開発Ⅱ	・レギュラーカリキュラムに含まれない関連分野の専門知識を習得する。 ・アパレル産業の現状や先輩の実体験をアドバイスされることにより将来の方向性を決めていく。	2・通年	30	1	○			○		○		
	○		校外研修Ⅱ	・研修を通して更に学生同士のコミュニケーションを深めると共に、研修先での企業研修、工場見学、体験学習から得られる自己の可能性を発見出来る様、創造性の領域を広げる。 ・研修先の企業の方とも、積極的に質問や自己アピールに挑戦し、自己の知識の引き出しを多く得られる様、後々の自分の進むべき道の参考になる様に研修中もアンテナを張る努力をする。	2・前期	30	1			○		○	○		
学年合計				25科目											1,170単位時間(39単位)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科3年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル造形論ⅡA	<p>3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。</p> <p>1 カジュアルウェアⅠ デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 2 バザー作品(カットソー)文化祭バザー作品(セットアップ) 3 ニューフォーマル デザイン/OP・ドレープ/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 4 ウィンターデザインコート デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 5 修了製作(後期) デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 6 ドレーピング ストレート原型/3面構成JK/ラグランスリーブコート/自由研究</p> <p>※使用ボディ・・・工業ボディ</p>	3・前期	30	1	○			○		○		
○			アパレル造形演習デザインⅡA		3・前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習ドレーピングⅡA		3・前期	60	2		○			○			
○			アパレル造形演習実技ⅡA		3・前期	90	3			○	○			○	
○			アパレル造形論ⅡB		3・後期	30	1	○				○		○	
○			アパレル造形演習デザインⅡB		3・後期	60	2		○			○		○	
○			アパレル造形演習ドレーピングⅡB		3・後期	60	2		○			○		○	
○			アパレル造形演習実技ⅡB		3・後期	90	3				○	○		○	

○		生産演習	アパレル産業の生産プロセスのうち、縫製工場における工業的な生産方法について「セル生産方式」をベースにした実習を通して理解を深める。均一な製品を安定的かつ効率的に生産するための手法として用いられる生産指示書類の重要性も再確認する。また完成品の検品を行うことで、商品となって消費者の手に届く製品が満たすべき品質を認識することを目標とする。	3・ 通年	30	1			○	○				○
---	--	------	---	----------	----	---	--	--	---	---	--	--	--	---

(10/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科3年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル商品企画・ 演習	ファッション業界における、企画デザイナー、デザイナーブランドのどちらにも対応出来るよう、ブランド設定、ターゲット分析、オリジナルデザインによるサンプル制作を通して、商品としての企画を学ぶ。また生産管理や工場への注文など細部に渡り、企業で行われている仕事の内容や方法を理解する。	3・ 前 期	30	1	○		△	○				○
○			自由研究Ⅲ	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとらえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。	3・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅢA	独自の発想力、デザインに対してのイメージをいかに具体的に表現していくかを考える。 様々な発想の手法を探り、試し、実験して行きながら新たなデザインの可能性を考えて行く。 改めて画材の特長、特質を知る事でデザインの表現テクニックを強化し自分独自の表現方法を探求して行く。	3・ 前 期	30	1			○	○		○		

○		ファッションデザイン画ⅢB	各自デザインに対してのメインテーマ、コンセプトを設定し、より具体的にそのイメージを表現する。 様々なサブテーマとメインテーマを合わせていきながらデザインバリエーションの幅を広げて行く。 デザインの表現テクニックを強化し、プレゼンテーション方法を常に考え提案していくことを目標とする。	3・後期	30	1			○	○		○					
○		アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。講義と演習により理解を深める。	3・後期	30	1	○				○		○				

(11/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科3年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			テキスタイル産業論	アパレル製品の主な材料であるテキスタイルを、編織の技法や工夫、染色加工、特殊加工など生産の観点から理解させる。また、工場、産地、見本市などのテキスタイル産業とアパレルが実際にどのように関わり、製品が作られて行くかを学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○			
		○	服装解剖学Ⅲ	1・2年次で学習した人体の構造と運動を基礎とし、3次元計測による運動計測、人体の動きとパターンとの関係について考察し、子供から高齢者までの体型とパターンに関しても研究させる。	3・前期	30	1			○	○				○	
○			アパレルマーチャンダイジング	アパレル業界におけるマーチャンダイジング業務の実務を講義と実習により指導し、アパレルマーチャンダイジングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。	3・通年	60	2	○			○		○			○

○		CADパターン メーカーⅡ	アパレル産業において工業化された設計・生産・製造のプロセスを認識し、生産技術の1分野である設計に活用される「アパレルCAD」システムを利用して、工業生産設計の流れと設計の考え方・手法・方法の理解を深め、設計システムの構築と管理の仕組み迄の内容を行う。	3・後期	30	1				○	○				○
○		生産管理各論 生産企画	アパレル産業の生産プロセスの内、メーカーにおける生産関連業務の専門知識を習得することを目的とする。授業内容はアパレル生産担当者の業務範囲を業界関連図から読み解き、それぞれの分野で発生する各種管理活動について品質(Q)・原価(C)・納期(D)それぞれの観点から体系的に学習する。海外生産の拡大から多様化する生産の現状を理解し、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案し発表する。	3・通年	60	2	○			○			○		
○		グレーディング	グレーディングの基礎・知識・実務レベル・オペレーション操作方法の理解・習得	3・後期	30	1				○	○			○	

(12/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科3年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニットアパレル造 形Ⅱ	ニットの基礎知識の習得し、アパレルにおけるニット製品の製作工程や技術を学ぶ。ニットに使用される素材・編み地について商品知識と共に学ぶ。ニットアパレル造形(Ⅰ)を基礎とし、(Ⅱ)では家庭用手編み機を主に基礎編み作成、工業機による手横機基礎編み作成を行う。	3・後期	30	1			○	○				○
○			ニットアパレル造 形(カット& ソー)Ⅰ	美しいシルエットを作る立体裁断とパターンの理解。丸編みで立体裁断の基礎知識とカットソーの縫製知識を理解させる。	3・前期	30	1			○	○			○	

○		コンピュータグラフィックⅢ	2年時までに習得したアドビ・イラストレーターを使ってのハンガーイラスト作成とその表現のレベルを上げより美しく精度の高い物を描ける様にする。また、描いたデザインデータの展開方法、先染柄やプリント柄の図案作成方法を学び、企画書としての提案力を高める。デザイン画もC.Gで描く事を学び、イラストとしての展開スピードのアップパリエーションの表現力を上げ、ビジュアル・プレゼンテーション作成技術を習得する。	3・通年	60	2				○	○				○
○		アクセサリ－a	アクセサリ－は服を引き立たせるための小道具である。アンティークや新しい素材を幅広く取りこみ、オリジナリティの高い作品、アートアクセサリ－の制作、そして服作りのヒントにと意識している。	3・後期	30	1				○	○				○
○		造形演習	発想-表現-コミュニケーション 3つを連動させながらクリエイションの力をつける。特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかりと組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。発想力、（特にグラフィックにおける）表現力、伝える力（プレゼンテーションスキル）の強化を目指します。	3・前期	30	1				○	○				○
○		アパレル染色演習Ⅱ	1、2年次で学んだ素材や染色についての知識や技術をもとに、浸染・捺染の応用的な技法を習得する。それにより発展的なテクスチャー表現を身に付け、アパレル作品の企画、制作力の強化に結びつける。	3・前期	30	1				○	○				○

(13/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科3年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッション英会話Ⅲ	英語をツールにしたコミュニケーションがとれるように、英語の運用力をつけることを目標とする。英語の知識に関係なく、授業に参加して学習することができるよう、文法中心ではなく体験的なクラス運営を試みる。	3・通年	60	2			○	○				○

			○	インターンシップ I	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追求と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。各自希望するインターンは探してることが条件。アポを取り、審査を受けて希望するデザイナーブランド企業、デザイン事務所、アパレルメーカー、テキスタイル企業、出版等関連企業も対象として実務体験をする。	3・後期	60	2			○		○	○		
学年合計						28科目	1,110単位時間(37単位)									
(15/18)																

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科4年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			アパレル造形論ⅢA	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するとともに広い意味で自己の可能性を発見し、創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品制作のプロセスの中で個々の目的に応じて個性を生かした表現・テクニックの育成をする。 1、 プライベートコレクションPart I・II ・8～10体製作・・・デザイン・パターン・実物制作・発表（ショーまたは展示） 2、 ドレーピング ・パンツ キプリス9ARレギュラーパンツボディ ・ジャケット 文化ヌードボディ（キノスリーブ） ・コート 文化ヌードボディ ・ニューフォーマル 文化ヌードボディ 3、 コンテスト作品	4・前期	30	1	○			○			○		
○			アパレル造形演習 デザインⅢA		4・前期	60	2		○						○	
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅢA		4・前期	30	1		○			○			○	
○			アパレル造形演習 実技ⅢA		4・前期	60	2			○	○				○	
○			アパレル造形論ⅢB		4・後期	30	1	○				○			○	
○			アパレル造形演習 デザインⅢB		4・後期	60	2		○			○			○	
○			アパレル造形演習 ドレーピングⅢB		4・後期	30	1		○			○			○	
○			アパレル造形演習 実技ⅢB		4・後期	60	2			○	○				○	

○	ニットアパレル造形 (カット&ソー) II	美しいシルエットを作るパターンの理解と創造的な縫製。丸編みカットソーの立体的裁断の考え方と企業向け縫製テクニックの見本帳作り	4・後期	30	1			○	○		○				
○	アパレル染色演習 III	アパレルデザインを行う上 重要である素材の染色加工に関する専門知識を養う。理論・技法・工程など実技を通し習得する。時代に沿った 各種表現方法を分析し構成する。	4・通年	60	2			○		○		○			

(16/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科4年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			テキスタイル企画演習	デジタルプリント機器を利用した布地制作を通してテキスタイルの知識・理解を深める。アパレルに利用されるテキスタイルを企画するという視点から、主にプリントの企画をたて、プレゼンテーションする技術・能力を身につける。	4・通年	60	2			○		○			
○			コンピュータワーク (生産管理)	応用的なアパレルCADの使用方法和、アパレルCADを中心とした様々なソフトウェアを関連づけて活用できることを目標とする。同じ資料を様々な方法で作成することにより、ソフトウェアのメリット、デメリットを認識する。3次元仮想ボディデータ作成や、仮想着装シミュレーションなど最先端のCADオペレーションを体験する。	4・前期	30	1			○		○			
○			生産管理各論 製品企画	商品作成の方法とルールを実践的に学習することで製品企画実務の理解をするとともに実務レベルでの簡単な実践を行う。専門的内容を理解しやすく簡略化したうえで、一般論として学生が受け入れられ理解できる講義内容の設定とする。	4・前期	30	1	○				○		○	

○	ニットデザインシステム演習	工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステムの使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、アパレル業界におけるニット製品のデザイン手法や布帛とのバリエーションの組み方を考えられる人材を育てる。	4・通年	60	2				○	○				○
○	コンピュータグラフィックⅣ	3年時までに習得したイラストレーターによる表現技術を用いて、市場性を踏まえた現実的な企画立案とビジュアル・プレゼンテーションを前提とした企画書作成を学ぶ。就職活動の為にプレゼンテーション資料として使える様な、プロフェッショナルとしての企画書を作成する。イラストレーターデータ(ai)からPDFに変換した企画書を制作者が全員にプレゼンテーションする。	4・通年	60	2				○	○			○	

(17/18)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科4年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グラフィックワーク	アドビ・イラストレーターを使っての精密なハンガーイラストの作成及びデザインデータの展開、先染柄やプリント柄の図案作成などを学び、ビジュアル・プレゼンテーション(企画書)製作を習得する。また、デザイン画をC.Gで描く事、バッグやベルト等の小物アイテムを描く事を学び、デザイン・企画の展開スピードのアップと「見る人にとってわかりやすい見せ方」を習得する。	4・通年	60	2			○	○				○
○			アクセサリーb	アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。新しい素材を取り込み、卒業制作、服のトータルコーディネートを意識したオリジナリティの高いアートアクセサリー制作。	4・後期	30	1			○	○			○	

○	○	雑貨企画	服飾雑貨(靴下、バッグ、帽子、アンダーウェア)の企画・生産までの流れ。ブランディング(メンズ・レディース)方法。靴下の企画、デザイン、指示書作成、サンプル作成、展示会出展までのグループワークショップ。	4・前期	30	1			○	○				○
○	○	カメラワークA	前、後期を通じて、4年間を通して学んだ技術を駆使し制作した作品(服)を写真を撮ることによって、新たな自己表現力を身につける。	4・前期	30	1			○	○				○
○	○	カメラワークB		4・後期	30	1			○	○				○
○	○	コラボレーションd	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、外部講師・企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見する。また、創造性の領域を広げ個性を生かした表現方法を身につける。	4・通年	30	1			○	○				○

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科4年) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ファッション英会話Ⅳ	この授業はファッション高度専門士科の学生を対象とする。この授業では初対面からグループディスカッションにおける、英語を使用した国際コミュニケーションについて取り扱う。また英語でのコミュニケーションを効果的に行う際に必要となる重要な要素についても取り扱う。	4・通年	60	2			○	○		○		
○			特別講義Ⅳ	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するため、各専門分野の方々との出会いを多くし物事に対する洞察力を養う。レギュラー授業には含まれない関連分野の専門知識を習得する。	4・通年	30	1	○			○		○		
	○		インターンシップⅡa	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	4・通年	60	2			○		○		○	
	○		インターンシップⅡb	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	4・通年	60	2			○		○		○	

○	卒業研究・創作	4年次の学生として既に習得してきたテクニックを更に追及する。そして自己の更なる可能性を発見し、クリエイティブなデザイン発想・オリジナリティを生かした表現でファッションクリエーションを考えてマイコレクションに展開し制作する。集大成とし卒業制作ショー・展示にて各自表現する。	4・通年	240	8	○	○	○
合計		25科目	960単位時間(32単位)					
総合計		101科目	4,410単位時間(147単位)					
卒業要件及び履修方法				授業期間等				
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること				1学年の学期区分		前・後期		
				1学期の授業期間		15週		
<p>(留意事項)</p> <p>1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。</p> <p>2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。</p>								